

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号
特開2003-316264
(P2003-316264A)

(43)公開日 平成15年11月7日 (2003.11.7)

(51)Int.Cl.⁷
 G 0 9 F 1/08
 A 4 7 F 7/04
 G 0 9 F 23/00

識別記号

F I
 G 0 9 F 1/08
 A 4 7 F 7/04
 G 0 9 F 23/00

テ-コ-ト⁸ (参考)
 Z
 Z

審査請求 未請求 請求項の数4 O L (全 5 頁)

(21)出願番号 特願2002-126052(P2002-126052)
 (22)出願日 平成14年4月26日(2002.4.26)

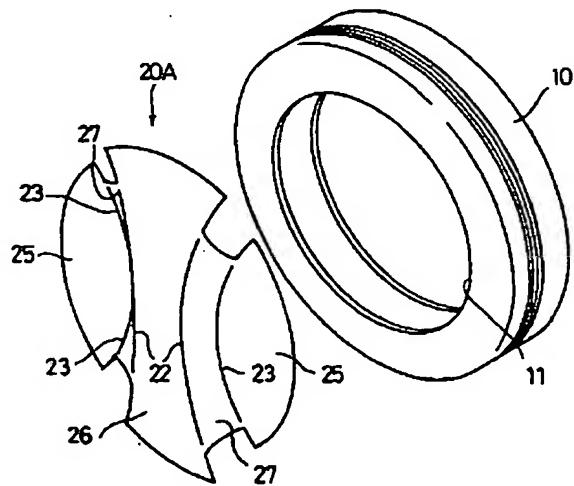
(71)出願人 591030341
 株式会社システムコミュニケーションズ
 東京都中央区築地5丁目3番3号
 (72)発明者 太 稔
 東京都中央区築地5丁目3番3号 株式会
 社システムコミュニケーションズ内
 (74)代理人 100083286
 弁理士 三浦 邦夫

(54)【発明の名称】販売用タイヤ装着立体看板

(57)【要約】

【目的】タイヤに装着して立体的に見せる立体看板を提供する。

【構成】自動車用タイヤの断面U字状部に入り込む左右のタイヤ内挿入舌片と；この左右のタイヤ内挿入舌片の内側に谷折り線で連続させて形成した左右の起立領域と；この左右の起立領域に山折り線で連続させて形成した中央部の主看板領域と；を有するタイヤ装着立体看板。



【特許請求の範囲】

【請求項1】自動車用タイヤの断面U字状部に入り込む左右のタイヤ内挿入舌片と；この左右のタイヤ内挿入舌片の内側に谷折り線で連続させて形成した左右の起立領域と；この左右の起立領域に山折り線で連続させて形成した中央部の主看板領域と；を有することを特徴とする販売用タイヤ装着立体看板。

【請求項2】請求項1記載の販売用タイヤ装着立体看板において、上記谷折り線と山折り線は、円弧状である販売用タイヤ装着立体看板。

【請求項3】請求項1または2記載の販売用タイヤ装着立体看板において、上記左右のタイヤ内挿入舌片の少なくとも一方は、二つに分かれており、この二つのタイヤ挿入舌片の間に、タイヤ外面に位置する補助看板領域が形成されている販売用タイヤ装着立体看板。

【請求項4】自動車用タイヤの左右のホイル用開口を跨ぐ、略中央部に切り込みを有する略C字状をなして、その周縁部に、円形山折り線を介して環状看板部が形成されており、

上記切り込みの対向部にそれぞれ、一対のタイヤ逃げ凹部とこの逃げ凹部間に位置するタイヤ内進入凸部とが形成されており、

C字状の両先端部には、互いに係脱可能な係合片部が形成されていることを特徴とする販売用タイヤ装着立体看板。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【技術分野】本発明は、自動車の販売用タイヤに装着して用いる看板に関する。

【0002】

【従来技術とその問題点】自動車用のタイヤショップでは、販売用タイヤを如何にして目立たせ、購買者にインセンティブ（インパクト）を与えることができるかに腐心している。

【0003】

【発明の目的】本発明は、タイヤに装着して立体的に見せる立体看板を提供してこのような要求に応えることを目的とする。

【0004】

【発明の概要】本発明による販売用タイヤ装着立体看板は、その第一の態様では、自動車用タイヤの断面U字状部に入り込む左右のタイヤ内挿入舌片と；この左右のタイヤ内挿入舌片の内側に谷折り線で連続させて形成した左右の起立領域と；この左右の起立領域に山折り線で連続させて形成した中央部の主看板領域と；を有することを特徴としている。

【0005】谷折り線と山折り線は、主看板領域の中央部が幅狭で両端部が幅広となるような円弧状とすることが好ましい。

【0006】この第一の態様の変形例としては、左右の

タイヤ内挿入舌片の少なくとも一方を二つに分け、この二つのタイヤ挿入舌片の間に、タイヤ外面に位置する補助看板領域を形成する態様がある。この補助看板領域を付加することで、広告のバリエーションを増やすことができる。

【0007】本発明の販売用タイヤ装着立体看板は、別の態様によると、自動車用タイヤの左右のホイル用開口を跨ぐ、略中央部に切り込みを有する略C字状をなして、その周縁部に、円形山折り線を介して環状看板部が形成され、切り込みの対向部にそれぞれ、一対のタイヤ逃げ凹部とこの逃げ凹部間に位置するタイヤ内進入凸部とが形成され、C字状の両先端部には、互いに係脱可能な係合片部が形成されていることを特徴としている。

【0008】

【発明の実施形態】図1ないし図3は、自動車用タイヤ10に装着する本発明に係るタイヤ装着立体看板20Aの第一の実施形態を示している。断面U字状をなすタイヤ10は、ホイールを有しない。タイヤ装着立体看板20Aは紙製で、図3に平面（展開）形状を示すように、全体として略円形をなしており、仮想直径線21に関して対称に、仮想直径線21に近い側から順に、円弧状山折り線22と円弧状谷折り線23とを有している。

【0009】円弧状山折り線22と円弧状谷折り線23で囲まれた領域の両端部は、切除されており、この切除領域24と円弧状谷折り線23で囲まれた領域がタイヤ内挿入舌片25を構成する。また、左右の円弧状山折り線22と切除領域24に囲まれた中心部が、幅狭で両端部に行くに従い幅の広くなる領域が主看板領域26を構成する。円弧状山折り線22と円弧状谷折り線23で囲まれた領域は、起立領域（異径タイヤに対応するクッション領域）27である。主看板領域26には適宜の看板文字または図形が描かれる。

【0010】上記構成の本タイヤ装着立体看板20Aは、図1、図2に示すように、円弧状山折り線22が山となり、円弧状谷折り線23が谷となるように曲折され、その左右のタイヤ内挿入舌片25の先端一部をタイヤ10のホイル用開口11から断面U字状部内に挿入することでタイヤ10に装着される。この装着状態では、主看板領域26が立体的にタイヤ10の外面に位置し、効果的な宣伝媒体となる。タイヤ10の径が若干異なっても、起立領域27の屈曲角度で吸収することができる。

【0011】図4及び図5は、本発明に係るタイヤ装着立体看板20Bの第二の実施形態を示している。この実施形態のタイヤ装着立体看板20Bは、図5に平面（展開）形状を示すように、図1ないし図3の実施形態のタイヤ装着立体看板20Aに比較して、タイヤ内挿入舌片25の中心一部を補助看板領域28として延長した点が異なる。すなわち、左右のタイヤ内挿入舌片25には、外径から円弧状谷折り線23に達する一对の平行な切り

込み線29が形成されており、この一対の切り込み線29と円弧状谷折り線23で囲まれた領域が補助看板領域28を構成し、残部が二つに分かれたタイヤ内挿入舌片25'を構成している。補助看板領域28の長さは適宜設定することができる。補助看板領域28にも看板文字や図形を描き、宣伝表示とする。

【0012】この実施形態では従って、タイヤ装着立体看板20Bを第一の実施形態と同様に折り曲げた後、図4に示すように、タイヤ内挿入舌片25'をタイヤ10内に入れ、補助看板領域28をタイヤ10の外面に沿わせる。この実施形態では、主看板領域26に加え、補助看板領域28も宣伝表示領域とすることができる。

【0013】図6ないし図8は、本発明に係るタイヤ装着立体看板20Cの第三の実施形態を示している。第一、第二の実施形態のタイヤ装着立体看板20Aと20Bは、タイヤ10の左右のホイル用開口11のいずれか一方に装着するタイプであったのに対し、この第三の実施形態のタイヤ装着立体看板20Cは、左右のホイル用開口11に跨らせて装着するタイプの実施形態である。

【0014】このタイヤ装着立体看板20Cは、図8に平面(展開)形状を示すように、全体として略円形形状をなす紙製基板の中心部に切り込み30を入れた略C字状をなしており、切り込み30の対向部に、一対のタイヤ逃げ凹部31と、その間のタイヤ内進入凸部32が対向させて形成されている。また、C字状の両先端部には、その一方に係合片部(切り込み部)33が形成され、他方に係合部隠し兼看板部34と、係合片部33に係脱可能な係合片部35とが順に形成されている。この係合片部33と35とを係合させることで、C字状の両先端部を結合することができる。さらに、タイヤ装着立体看板20Cの周縁部に円形山折り線36が形成されており、この円形山折り線36の外側が環状(円錐台状)看板部37を構成している。係合部隠し兼看板部34も宣伝表示に用いることができる。

【0015】この第三の実施形態のタイヤ用立体看板20Cは、係合片部33と35を外した状態で切り込み30内にタイヤ10を进入させ、タイヤ10の左右のホイル用開口11を跨ぐ形とする。その状態で、係合片部33と35が接近するように変形させ、タイヤ内进入凸部32をホイル用開口11内にいれ、タイヤ逃げ凹部31内にタイヤ10の周縁部を入れる。そして、図6、図7に示すように、係合片部33と35を係合させれば、環状看板部37が円錐台状になる。よってこの実施形態のタイヤ装着立体看板20Cは、タイヤ10の軸線と直交する方向からの視認性が高い。

【0016】図9に、以上的第一、第二、第三の実施形態のタイヤ装着立体看板20A、20B、20Cを組み合わせて使用した陳列態様例を示した。

【0017】

【発明の効果】以上のように本発明によれば、タイヤに装着して立体的に見せる立体看板を提供することができ、従来のタイヤ販売では期待できなかつた高い宣伝効果を期待できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明によるタイヤ装着立体看板の第一の実施形態を示す、タイヤに装着する前の斜視図である。

【図2】同タイヤ装着立体看板をタイヤに装着した状態の斜視図である。

【図3】同タイヤ装着立体看板の曲折前の平面図である。

【図4】本発明によるタイヤ装着立体看板の第二の実施形態を示す、タイヤに装着した状態の斜視図である。

【図5】同タイヤ装着立体看板の曲折前の平面図である。

【図6】本発明によるタイヤ装着立体看板の第三の実施形態を示す、タイヤに装着する前の斜視図である。

【図7】同タイヤ装着立体看板をタイヤに装着した状態の斜視図である。

【図8】同タイヤ装着立体看板の曲折前の平面図である。

【図9】第一、第二、第三の実施形態のタイヤ装着立体看板を用いた陳列例を示す斜視図である。

【符号の説明】

10 10 タイヤ

11 ホイル用開口

20 タイヤ装着立体看板

22 円弧状山折り線

23 円弧状谷折り線

24 切除領域

25 25' タイヤ内挿入舌片

26 主看板領域

27 起立領域(異径タイヤに対応するクッション領域)

28 補助看板領域

30 切り込み

31 タイヤ逃げ凹部

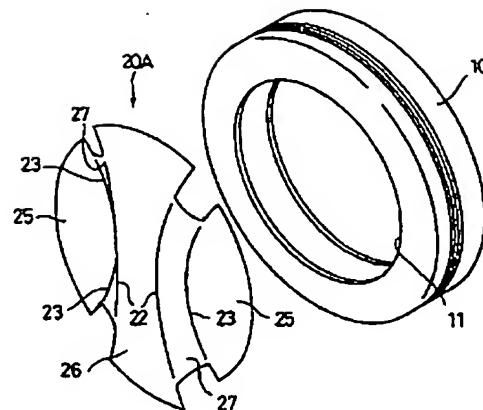
32 タイヤ内进入凸部

33 35 係合片部

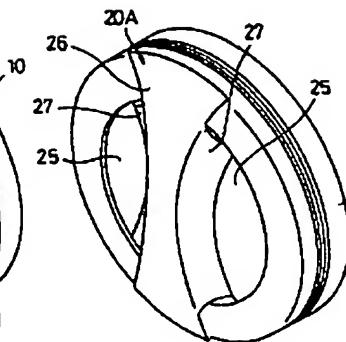
36 円形山折り線

37 環状看板部

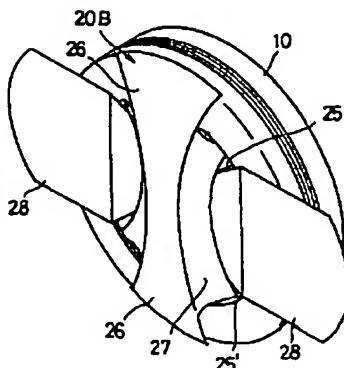
【図1】



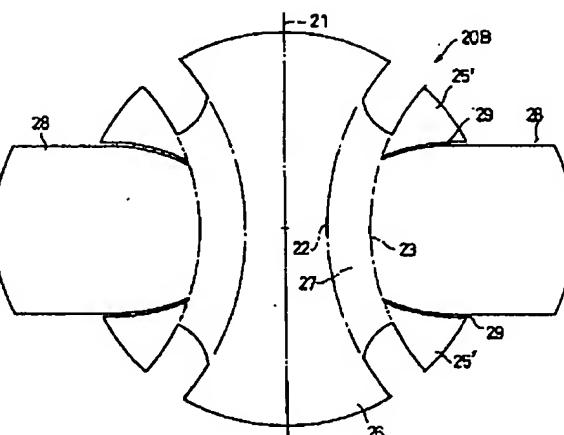
【図2】



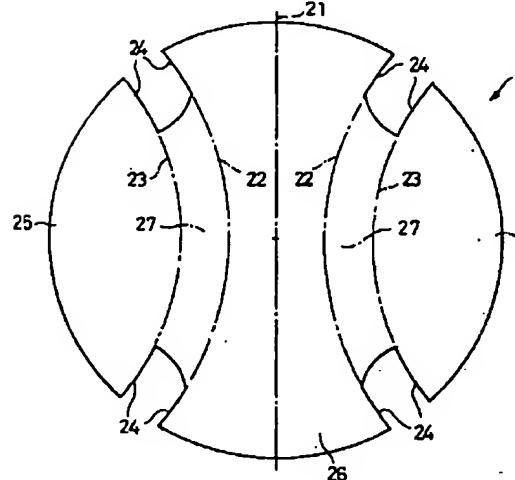
【図4】



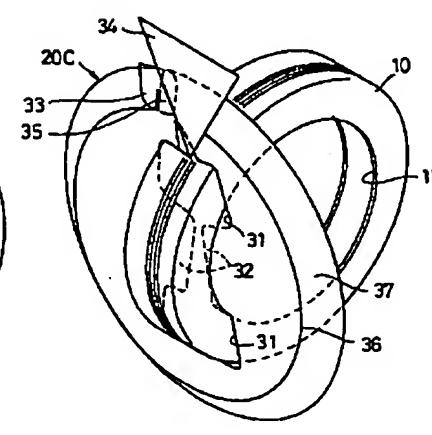
【図5】



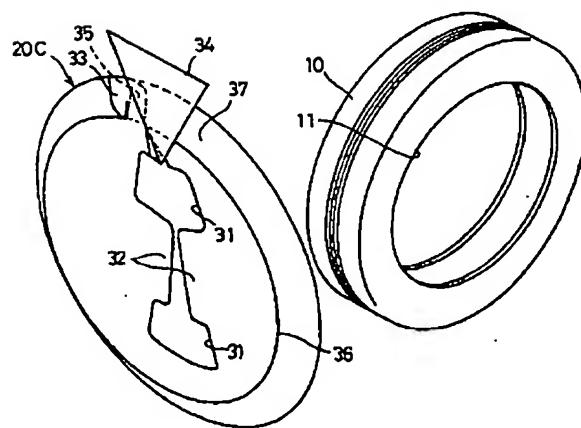
【図3】



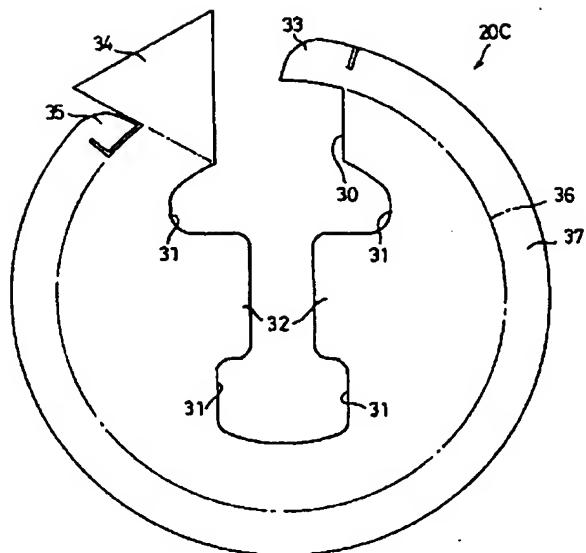
【図7】



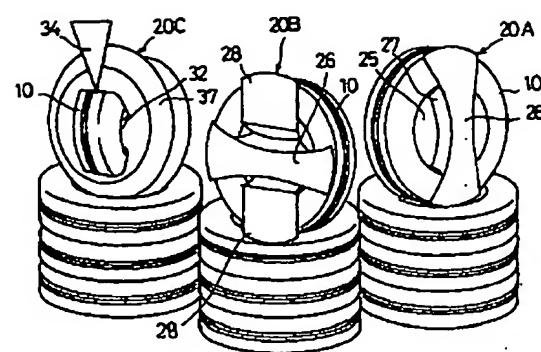
【図6】



【図8】



【図9】



**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- BLACK BORDERS**
- IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- FADED TEXT OR DRAWING**
- BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- SKEWED/SLANTED IMAGES**
- COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- GRAY SCALE DOCUMENTS**
- LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- OTHER:** _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.